

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0371100249
法人名	医療法人 楽山会
事業所名	グループホーム ハイム はまゆり
所在地	釜石市小佐野町3丁目9番2号 (電話) 0193-23-2036

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通り3丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年10月17日	評価確定日	12月11日

【情報提供票より】(19年 9月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 5人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建	造り
	階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,100円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200円	昼食 250円
	夕食	350円	おやつ 70円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月18日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	1名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	2名	要支援2	-名
年齢	平均 86歳	最低 82歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	せいてつ記念病院・かまいし駅前歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設されている、せいてつ記念病院、老健施設が2ヶ所、在宅介護支援センター訪問看護ステーション等医療推進体制に恵まれ、街中でありながらも静かな環境にある。平成12年の開設当時から地域交流へ取り組み、地域生活応援センターが近くに設置され、行政との連携が取れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価は、全て“できている”となっているが、更に質の確保、向上の取り組みをされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価は全て“できている”となっているが自己評価をし、その結果を改善ノートにまとめ学習会の材料として日々のケアに活かす方法を取っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現在まで2ヶ月おきに開催されて、会議録も整備されており、釜石市の指導で廊下に掲示されて誰でも見ることが出来る。地域生活応援センターが市に6ヶ所設置され、保健、福祉、地域づくりの窓口となり、連携が密に図られている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月1回手書きのハイム便りを作成し、入所者の様子を金銭出納帳と一緒に報告されている。“家族との繋がりを大切に”という職員の理念が活かされているが、遠方の家族や、難しい対応等もあり、苦労もうかがえる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。スポーツ大会(グラウンドゴルフ等)には参加したり、応援にも出かける。事業所側からも“のんびり通信”を2か月に1回町内会に回覧し、盆踊りにも多数参加していただく。ボランティアの受け入れも積極的である。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“地域の中で喜びと安心感を持ち、その人らしく生きていくことを支援する。”という理念は開設当時からスタッフで作上げた理念で、地域性を重視した取り組みをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関と事務室に理念を掲示して職員は朝の申し送り時や、ミーティングには理念をもとにした話し合いや、職員の心がまえを復唱し、日々新たな気持ちで対応している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。スポーツ大会(グラウンドゴルフ等)には参加したり、応援にも出掛ける。事業所側からも”のんびり通信(2か月に1回)を町内会に回覧し、盆踊りにも多数参加していただく。ボランティアの受け入れも積極的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価は全て”できている”となっているが、自己評価をし、改善計画を立て、質の向上、確保に取り組む支援がなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議録は、市の指導もあり、誰でも見られるということで、掲示されている。入居者全員が市民でもあり、家族の了解も得られ今後のサービスの向上に活かされるよう取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域生活応援センターが市に6か所設置され、保健、福祉、地域づくりの窓口となり、連携が図られている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月居室担当者がハイム便りとして入居者一人ひとりに添った日々の様子を手書きで作成し、金銭出納帳も定期的に報告されている。職員の心がまえのひとつとして、“家族とのつながりを大切に”という理念が実践されている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会(年2回)開催しているが、遠方の家族の参加はのぞめない。運営に協力的な家族もあるが、難しく対応に苦労している。苦情、相談等については、重要事項で説明をしている。現在のところ苦情はない。投書箱利用についても、併設の老健に入れてもよい旨、説明している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>併設されている法人の職員の出入り口は、グループホームの正面玄関前にあり顔なじみになっているが、異動の際は内示の時点で1か月ぐらいをかけて交流をし、スムーズに移行出来るよう配慮されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人は法人で研修を受けた職員が来ている。段階に応じた研修もあり、定期的に行われている。法人では症例発表、市の研修会にも参加している。職員の中には休日に自費で研修を受けている人もいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員の交換研修は年1回実施され、交流の連携の取り組みが行われている。三陸ブロック研修は常に参加し、サービスケアの向上に活かしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に聞き取りを行なった入居相談記録(バックグラウンドアセスメント表)にチェック式ではなく、文章で細部にわたって記入されており、分かりやすく、とても見やすく工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	釜石弁を使うことにより、暖かさ、ぬくもりが感じられ、利用者に教えられている。一人ひとりの個性に合わせて穏やかな生活が出来るような場面づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情を汲み取りながら支援している。トイレ使用等の失敗や成功例もあり、よく把握され検討されている。生活援助計画書に確認しながらのチェック体制が出来ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに寄り添うように具体的に作成し、“その人らしく”暮らせるよう支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活援助計画書は状態の変化した都度や3ヶ月毎に見直しをし、家族に報告されている。また家族からの情報収集を行いながら作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	市の高齢化は33%と高く、地域全体で取り組みがなされている。同一敷地内の協力病院のせいてつ記念病院で対応され利用者も家族も魅力のひとつと思われる。精神病院の通院の支援も家族の了解で行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在までの病歴が細かく記載されてある一覧表がある。通院は家族同伴が原則であるが、都合によりほとんど、ホームで対応し結果を電話で家族に報告しているのが現状である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の入居者には同意書を頂いている。協力病院の対応が出来る状態にある。全員より加算料を徴収している。“利用者の重度化した場合における対応に係る指針”のマニュアルも作成され職員研修も実施されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇研修、接遇マニュアル等で勉強会が実施されている。個人情報保護法の目的を掲示し対応の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを大切にして、自己選択の方法で掃除、食事の準備、後片付け等を支援している。個人チャートには24時間1日の様子が記録されている。全職員で記入し、ミーティングの代用にもしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物しながら献立を考え、調理、盛り付け、後片付け等は、職員と一緒にしている。それぞれの分担で、出来上がった料理を褒めあいながら、話し合いながら、楽しい食事になるように支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴可否判断基準が作成され、午後は毎日入浴できる状態である。利用者の状態を見ながら見守りをしている。仲の良い利用者同士で入浴することもあり、入浴を拒む利用者に対しても工夫がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々のプランに役割を活かしているが、地域性のためか(利用者は昔は釜石製鉄の奥様方)畑仕事は職員が自らやって見せることにより、気晴らしの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月1回は利用者の状態を見ながら、少人数に分け、ドライブ、外食の支援をしている。買物は近くにスーパーがあり、市場は広いので自由にさせ、見守りしながらの工夫がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみで、町内会の防犯部が巡回に来てくれる。日中は自由な暮らしがされ、入居者の外出傾向も把握しており、併設の職員も出入りするので見守りも支援されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設及びホーム内の避難訓練は春・秋に実施している。地域防災相互応援協力協定書を町内会と結び、参加協力をお願いしている。ハイムだけの秋の訓練は9月24日実施している。	○	夜間を想定し、午後2時からの訓練を実施しているが、明るさの違いの訓練の検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外の水分補給がなされ、おかゆ食の方もおり、食器も個々のものが使用されている。併設の管理栄養士から定期的なアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間はスペースが広く確保され安らぎと、居心地の良さが感じられる。また古いタンス、茶道具等思い出につながる物がある。廊下にはイス、テーブルが一人用、二人用と自由に過ごせるよう支援されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重要事項説明書に所持品の持ち込みの可能な記述もあり、実際に仏壇、位牌等が持ち込まれている。		